



冬の手稲山、 白い散策路



▶今回、手稲山の雪道で活躍したスノーシュー（西洋かんじき）。深雪の上もスムーズに進むことができる

▲▼ボブスレー競技場にはボブスレーが置き去られていた(上)。使われることが無くなり枯れ枝が目立つコース部分(下)



▲手稲パラダイスヒュッテ(左上)。2階の窓からの雪景色がまぶしい(右上)。雪に覆われた看板(右下)。前庭につるされたヒマワリの種入りのえさ箱では小鳥が憩う(左下)

※ヒュッテが使用できるのは土・日曜日です

午前7時。まだ夜明け間もない手稲山。ボブスレー競技場を横目に手稲山ろく線を登って行くと、まだスキー場の人影もまばらです。いつも目にする手稲山とは別の「もうひとつの冬の手稲山」を求め、カメラを手に目指したのは早朝の自然歩道。大きく息を吸い込むと「ツーン」と鼻の奥が痛くなるような寒気の中、「スノーシュー」(西洋かんじき)を装着し、雪深く覆われた自然歩道に歩を進めました。

雪化粧をした木々を見ながら、足元に注意を払いつつ一歩一歩進んでいくと、ようやく日も高く昇り、山並みの木々の間から日の光が雪面を照らし出します。周囲を見回していると、雪だるまのようになった手稲パラダイスヒュッテの看板を見つけました。ヒュッテのドアを開けると暖かな空気に包まれます。ストーブにあたり管理人さんに勧められた熱いお茶を飲むと、山を訪れた人にとってここはまさに「楽園」なのだと感じました。

凛とした空気の中、
たたずむ楽園小屋